

令和6年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立宇佐支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> * 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼 	人とのかかわりを大切にしながら具体的な、社会性を意識した経営ビジョンが設定されている。校長の運営計画に対するミドルリーダーの信頼と実行力が確認できた。今後は対話を通じた理念の共有が望まれる。
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> * 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備 	体系だった組織が整備されており、定例会議のサイクルの明文化や、課題解決の道筋を作り業務を引き継ぐ実践がなされている。また、学部主事間の報連相が密に行われており、小・中・高それぞれの特性や役割の違いを認識した上での連携ができています。
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> * 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備 	緊急事態に備えた危機管理マニュアルが詳細に整備されており、訓練の反省を生かしたマニュアルの改訂に取り組まれている。また、ICTを用いて報告・共有しやすい仕組みが確立されていることは評価できる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組 	学校評価アンケートの結果から、保護者の学校への信頼や満足度の高さについて評価できる。個人情報の保護に十分配慮しながらも、児童生徒による情報発信などの工夫や、地域との積極的な連携ができています。
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> * 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 	個別の指導計画推進教員の実績が示されている。また、巡回相談が地域の通級指導教室や特別支援学級に対して担当者を中心に積極的に行われている。
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組 	ICTを使用し児童生徒の状況や教材教具などの情報共有の仕組みがあり、児童生徒一人一人の個性を重視しながら、授業が計画的に実施されている。また、専門性の高い教員が講師となって研修を実施することで、知見の共有、知識の習得が積極的に行われている。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 	育成する資質・能力を明確にした単元計画表、略案シート、評価シート等が整備され、計画的に授業が行われている。
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> * 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践 	次年度の年間指導計画を検討するスケジュール・方法が明文化されている。定期的に研修や授業評価ミーティングが実施され、教職員内で指導実践の好事例を共有ができる仕組みが設けられており、授業改善が行われていることは評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> * 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援 	各学部の段階に応じたキャリア教育を行っており、児童生徒の個性に応じた就業先につなげていた。また、卒業後の支援と離職率のデータや関係機関との連携と体制が明示され、卒業後の支援体制は充実している。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> * 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実 	新規開拓事業所の実績が示され、児童生徒の能力に応じた職場開拓が積極的に行われていた。実習中の調整も積極的に行われていた。職業観を広げる指導において、より多角的な視点でのアプローチが求められる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応 	警察やスクールサポーターから学び、施設との連絡会が開催されており、様々な外部機関との連携ができています。また、SNSの危険性については、管理ガイドブックの策定など整備が適切に行われており、高等部での指導の事例が示された。
	2 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> * 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組 	スクールカウンセラーなど専門家の助言や校内研修の事例が示された。児童生徒のカウンセリングが状況に応じて行われ、授業形式での連携は整備されている。今後フィードバックが重要になるため、更なる連携強化が望まれる。
	3 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> * 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組 	地域のフェスティバルへの参加を聴取し交流計画など頻回に設定されていた。生徒会活動のポスターなどから、縦割りでの活動が積極的に設定されていることは評価できる。
	4 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備 	児童生徒の健康管理のマニュアル・防災に関するマニュアルが整備されており、安全・安心に留意していた。医療的ケア児への対応では、安全委員会の定期開催、校内研修、マニュアル・報告体制の整備など行われていた。
総合評価	校長の強いリーダーシップと熱意が随所に見られ、ミドルリーダーや児童生徒からの信頼が厚く、現代的教育課題に即した明確な学校運営計画を策定されている。学校公式YouTubeチャンネルを活用した児童生徒主体の取組は特筆に値し、このような活動が柔軟性の高い知的障がい特別支援学校の教育課程に位置付けていくことに期待したい。各種関係機関との連携が着実に進められており、緊急時対応のマニュアル化、企業見学会の実施等「当たり前のことをするための改善」に加えて「新しいことを創るための改善」が行われている。一方で、空き時間を作り、作業時間を確保するといった工夫は見られたが、新たな取組に伴う教職員の業務負担の増加に留意する必要がある。総じて、教職員と児童生徒の活発な交流や、児童生徒の芸術的な創作活動の成果から、教育実践が着実に実を結んでいることが感じられ、さらなる発展に期待したい。		
校長コメント	本校では今年度、「令和7年度教育課程の編成と年間指導計画の作成」「安全・安心な学校づくり」「働き方改革の推進に向けた業務改善」を重点目標に定め、取組を行ってきた。教育課程編成では、令和7年度からの教科中心の指導に向けた具体的な改善を行い、年間指導計画への反映も行うことができた。安全・安心な学校づくりでは、防災や摂食指導等の取組はもとより、本校の児童生徒の特性を鑑み、卒業後の将来の生活を見据えた地域・関係機関との連携の充実を図った。また、オフィスワークタイムの取組などを通じて、働き方改革への意識も高まりつつある。これらの取組は、ミドルリーダーが実行力を発揮し、主体的に業務を遂行したことで校内の機運が高まり、実現することができた。今後は、対話を活発に行うことで本校の使命や理念を職員一人一人が意識できるようにし、一丸となって課題の解決や教育活動の充実を図りたい。		